

平成29年度 綾瀬市立綾南小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども			
学校教育目標	学校経営の方針			
<p>「心も体も健康な子どもを育成する」 <めざす児童像> ・精一杯学習する子(知育) ・明るく運動する子(体育) ・最後までがんばる子(情意) ・思いやりのある子(徳育)</p>	<p>○家庭・地域との連携のもとに教育活動がなされている。 ○地域の教育力を積極的に取り入れている。(信頼を築く学校) ○児童及び教職員一人ひとりが目標に向かって活動している。 ○あいさつがしっかりとされている。(活気に溢れる学校) ○「命を大切にした授業」を展開している。 ○「相手を思いやる」気持ち・心情の育成が図られている。</p>			
今年度の重点目標				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな人間性の育成 (3) 支援教育を大切に (4) 健康・体力づくりの推進 (5) 『安全安心』を重視した指導の充実 (6) 子どもと向き合う時間の確保 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (7) 学校運営体制の改善 (8) 「報告、連絡、相談、確認」を基本とした指導体制の確立 (9) 教科担当制(授業交換)の推進 (10) 地域・保護者との連携 (11) 幼稚園・保育園・中学校との連携 </td> </tr> </table>			(1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな人間性の育成 (3) 支援教育を大切に (4) 健康・体力づくりの推進 (5) 『安全安心』を重視した指導の充実 (6) 子どもと向き合う時間の確保	(7) 学校運営体制の改善 (8) 「報告、連絡、相談、確認」を基本とした指導体制の確立 (9) 教科担当制(授業交換)の推進 (10) 地域・保護者との連携 (11) 幼稚園・保育園・中学校との連携
(1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな人間性の育成 (3) 支援教育を大切に (4) 健康・体力づくりの推進 (5) 『安全安心』を重視した指導の充実 (6) 子どもと向き合う時間の確保	(7) 学校運営体制の改善 (8) 「報告、連絡、相談、確認」を基本とした指導体制の確立 (9) 教科担当制(授業交換)の推進 (10) 地域・保護者との連携 (11) 幼稚園・保育園・中学校との連携			
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策		
1 学習指導	学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	多くの教職員が、校内研究のテーマを意識して研修や研究に参加し、授業改善を図った結果、昨年度よりも肯定的な回答になりました。今後も、さらに校内研究や職員研修の充実を図り、教師の授業力が向上するように取り組んでいきます。児童のつまずきに目を向けた授業づくりに努め、児童が一層意欲的に学習に取り組む状況を作っていきたいと思えます。		
2 教育課程	児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動などに積極的に参加している。	「そう思う」「ややそう思う」の回答が8割を超えており、異学年交流の「にこにこタイム」や学校行事などにも楽しく参加できた児童が多いと評価しています。今後も児童の主体的な取組を支援しながら、一人ひとりの充実感や達成感につなげられるように、ねらいを明確にし、活動の内容を工夫しながら意欲を持って取り組めるよう、指導に努めていきます。		
3 児童・生徒指導	学校は、「思いやりのある子、最後までがんばる子」を育てる指導を積極的に行っている。	思いやりのある行動は児童同士の人間関係をより良いものにし、楽しい学校生活の基盤となります。道徳の時間、学級活動、福祉体験、また児童会活動、異学年交流などを通して、互いを思いやり、認め合える心情を育てる取組の充実をさらに図っていきます。		

4 児童・生徒指導	児童は、友だちや先生との学校生活を楽しんでいる。	学校生活が楽しいと思っている児童が8割を超えていることは、学校づくり、学級づくりで一人ひとりを大切にしながら、仲間づくりを支援してきたことが反映されていると思います。しかし、その半面、悩みや不安を抱えている児童もいます。どの児童も笑顔で学校生活を送れるように、毎日の観察や声かけを積極的に行い、支援していきたいと考えています。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	年度初めの懇談会で「いじめ問題への取り組み」を配付し、説明を行いました。教職員には「いじめ対応マニュアル」を配付し、共通理解を図っています。道徳の授業や教科等を通して、思いやりの心をもつ児童の育成に一層取り組んでいきます。また、いじめは「絶対にゆるされないこと」という指導を徹底していきます。
6 保健管理	学校は、「明るく運動する子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	体育科の授業を通して、児童に体を動かすことの心地よさを体感させ、進んで運動に取り組むよう、今後も指導を重ねていきます。体育の授業以外でも、休み時間等に体を動かす機会を積極的に設け、心も体も健康な児童の育成を目指します。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	児童の安全な環境づくりのため、施設・設備の点検、管理について、気を緩めることなく、安全対策については万全を期すように努めていきます。また、緊急時の避難の仕方や安全な歩き方の指導を日常的に行っていると実感している職員も増えてきているので、今後も安全部を中心に様々な場面を想定して指導に努めていきたいと思ます。
8 支援教育	学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。	今後も「困った」ではなく、「困っている子」と捉え、その子の困り感に寄り添いながら対応を考えていきます。担任が課題を一人で抱え込むことなく、必要に応じてケース会議を開いたり、外部機関との連携を視野に入れたりチームによる組織的な対応を行うことで、適切な支援が行えるように努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	今年度は「ややそう思う」の割合が少し増える結果となりました。教職員一人ひとりが組織の一員としての自覚と責任のもとに活動はできてはいますが、新たな視点をもって取り組むことが薄らいでいるのかも知れません。今後も前向きに業務にあたる意識をもち、各グループの連携を図りながら、協働して様々な課題に意欲的に対処し、組織の活性化を図っていきます。

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究では国語科を中心に、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりに取り組み、日々の授業に生かせるように教師一人ひとりが努力しています。今後も校内研究の充実を図るとともに、教職員の要望やニーズを考えながら、児童の指導に反映されるように、研究・研修計画を立てていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	昨年度に比べて2倍の保護者の方が「そう思う。」と回答しています。今後も、学校目標の「心も体も健康な子どもの育成」の具現化に向けて、健康教育・心の教育をより一層充実させていきたいと思ます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年度と比較して教職員の「そう思う」の割合が伸びたのに対して、保護者の回答はほとんど変わっていません。今後も各たよりや授業参観、懇談会を通して、日々の学習活動や学校の様子、行事などの取組を積極的に発信するとともに、地域の声にも耳を傾け、連携を深めていきます。また家庭、地域の理解と協力を得ながら、児童の健全な育成のための教育活動を推進していきます。
<p>【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校が楽しいという児童の評価が高いことはすばらしい。学校内も落ち着いた雰囲気児童が学校生活に臨んでいることにもよると思われる。今後も児童のために地域との繋がりをしっかりと持ちながら、落ち着いた学校を目指してほしい。 • 異学年交流の「にこにこタイム」は大変良い取組である。いろいろな学年と関わることで、認められてうれしいこと、言葉遣い等の人づき合いの基本等を学び、それらが心が育っていくことに繋がる。今後も異学年交流の「にこにこタイム」を通して児童の心の育成に努めてほしい。 • 基礎基本を定着させるための一つとして、家庭学習は大切である。学校からも家庭学習の手引きは出ているが、保護者の中には、宿題をしていれば大丈夫という意識がある。家庭学習をどのように取り組むべきかを学校から再度発信してもらえば、保護者もわかりやすく、家庭でも取り組めると思う。家庭学習への取り組み方についてさらなる検討をお願いしたい。 • いじめの早期発見、未然防止のための取組を学校内で組織的に行っていることは分かった。保護者アンケート結果の、20%が「わからない」と答えていることから、全体に周知させることの難しさを感じる。学校内で行っている取組を様々な機会と手段を活用して発信していくことで、いじめに対する学校の取組を理解してくれる保護者も増えていくと思われる。今後の発信の取組に期待する。 		